

アジアの環境問題解決への協力

アジア各国では、近年急激な経済成長と人口増加に伴い環境汚染が深刻化し、ヒトの健康への影響が懸念されています。汚染の種類や実態は国や地域ごとに多少の違いがありますが、基本的には1960年代の高度成長期における日本のそれと類似しています。

このような従来型の「公害問題」に加え、一方で、環境問題に関する国際的な枠組みへの国家としての対応も急務となっています。例えば、「残留性有機汚染物質(POPs)の製造・使用・輸出入の禁止または制限」などを目的とした「ストックホルム条約」に、すでにほとんどのアジア諸国が署名、批准しています。そのため、条約の対象化学物質の測定分析の技術導入が急務となっています。

当研究所ではダイオキシン類、PCB及びPOPsに関する開設以来の長年の経験と高い技術力を活用し、これらアジア諸国への技術協力を2004年から実施してきました。

協力先は、主に中国、タイ(写真1)、ベトナム、インドなどの国家研究機関及び行政機関並びに大学で、「(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)」、「(独)国際協力機構(JICA)」、「国際連合環境計画(UNEP)」、「国際連合工業開発機関(UNIDO)」などの事業を活用してきました。

これらの技術協力事業を通じて、現地での指導はもちろん、50人近くの環境分野の研究者及び行政官を受け入れ、主に当研究所で研修を実施してきました。現在、研修生は帰国後、それぞれの組織の中心メンバーとして活躍しています。



写真1 タイ国での研修風景

さらに、中国においては研究協力を発展させ、環境測定を主な事業とする当社合併会社「中持依迪亜(北京)環境研究所有限公司」を2009年に北京に設立するに至りました。現在、中国における本分野のリーディングカンパニーとして広く認識されています。

今後、インドネシア、カンボジア、フィリピン、モンゴル、ラオスなども含めたネットワークを構築し、アジアの環境問題解決に協力していきたいと考えています。

持続可能な未来の創造を担う子どもたちへ

「持続可能な社会づくり」が大きな課題となっているなか、環境保全に向けた自社の取り組みを知ってもらおうと、学校や地域に向けた出前授業や工場見学などを実施する企業が増えています。

当社においても、NPO法人「地球環境カレッジ」の応援や、琉球朝日放送主催の「夏休み子ども自由研究」に協力するなど環境教育に力を注いでいます。「子ども自由研究」では、当社ブースに約3,000人も親子が訪れ、顕微鏡下に広がるプランクトンの世界に驚きの声をあげていました。当研究所でも独自の活動を行っており、毎年夏に、地元の小・中学生や一般の方々を対象として、環境学習会と所内見学会をあわせた「なつやすみ！子ども環境塾」を開催しています。

子ども環境塾では、これまで当研究所が培ってきた技術と経験を活かし、科学の不思議さや自然環境の大切さを身近に感じられるプログラムを実施しています。ペットボトルを使った水ろ過装置の作成や、雲ができる仕組みを学べる実験、貝殻のストラップ工作、親子での石けん作りなどです。なかでも、ナマコやヒトデ、カニなど磯の生き物を触ることができるタッチプール(写真2)は毎年大人気です。



写真2 タッチプールの様子

子ども環境塾は2012年で5年目を迎え、地域での認知度も上がっており、回を重ねるたびに参加者が増えています。今回は地元の方々に加え、静岡県が主催する「子どもエコクラブ交流会」にも環境学習の場として活用していただき、活動の輪の広がりを実感しています。

当研究所は今後も、このような環境教育を通じた地域貢献活動を、内容を充実させながら続けていく予定です。そして、ここでの体験が子どもたちにとって、持続可能な社会について考え、創造していくきっかけになることを願っています。